

令和3年度 決算報告

本市の令和3年度の決算がまとまりました。
 どのようなお金が入ってきて、どのような事業に使ったのか。また、これらの数字から市の財政事情はどうかを見ていきます。
 財政局課 ☎27-5053

令和3年度の一般会計の決算は、前年度と比較して歳入が37.6億円(5.6%)の減で633.1億円、歳出が38.3億円(6.0%)の減で597.4億円となりました。歳入から歳出を差し引いた形式収支は35.8億円、この額から翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は34.6億円の黒字となりました。

歳出総額 597.4億円
 (対前年度比 6.0%減)

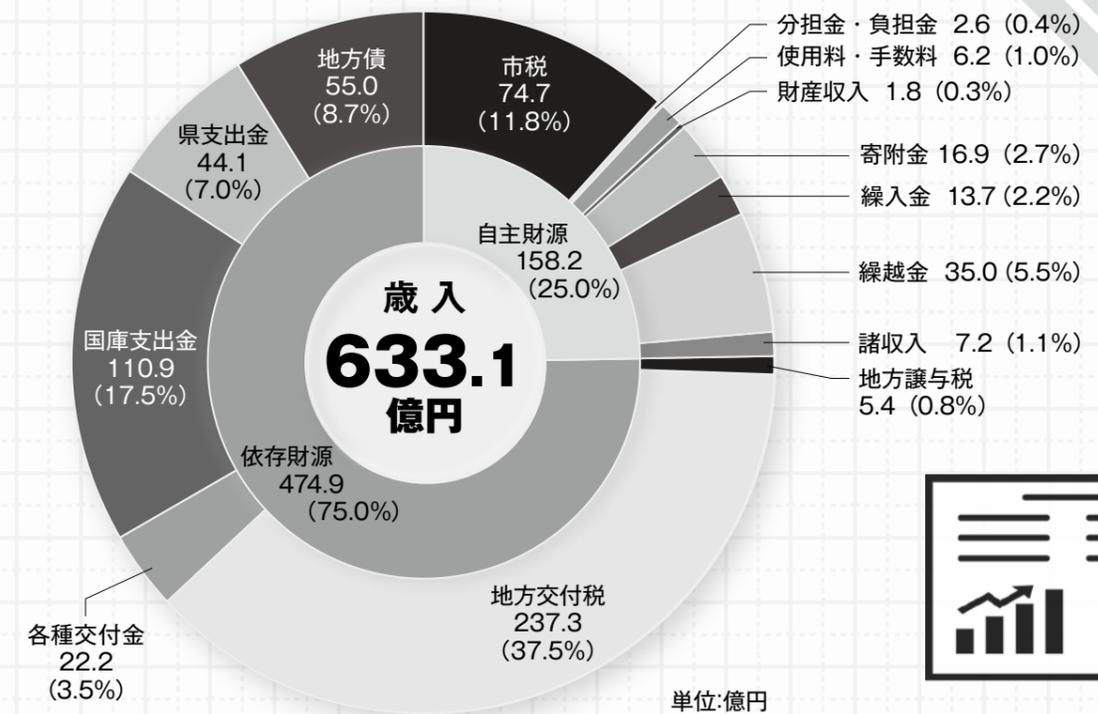
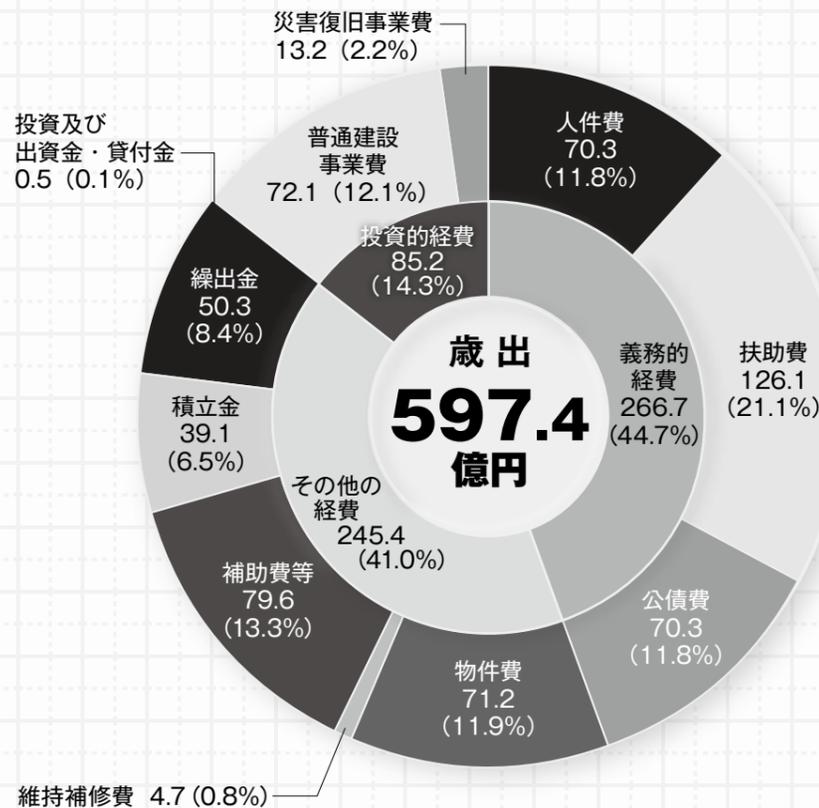
歳出のトップは扶助費
 歳出決算額を性質別にみると、扶助費などの義務的経費が266.7億円(44.7%)、補助費等などその他の経費が245.4億円(41.0%)、普通建設事業費などの投資的経費が85.2億円(14.3%)となりました。

歳入総額 633.1億円
 (対前年度比 5.6%減)

歳入の75%が依存財源
 歳入決算額を財源別にみると、市税などの自主財源が158.2億円(25.0%)、地方交付税や国・県支出金などの依存財源が474.9億円(75.0%)となりました。

【性質別のお金の使い道】

- **扶助費**
生活困窮者、子ども、高齢者、障がい者などを援助する費用
- **公債費**
国や銀行などから借り入れたお金の返済のための費用
- **物件費**
旅費や物品の購入費、委託料、賃借料などの費用
- **補助費等**
広域連合(消防やごみ処理)に対する負担金や水道・下水道・病院事業への補助金などの費用
- **繰出金**
特別会計へ援助する費用
- **普通建設事業費**
道路や橋りょう、漁港、観光施設や学校などの公共施設の整備費用



※金額や構成比の合計と内訳は、表示単位未満を四捨五入しているため必ずしも一致しません。

企業会計の決算状況

区分	収入	支出	
水道	収益的収支	24億3,177万円	22億6,637万円
	資本的収支	2億4,807万円	15億1,628万円
下水道	収益的収支	18億8,838万円	17億5,965万円
	資本的収支	3億4,836万円	9億7,173万円
病院	収益的収支	46億4,426万円	38億4,165万円
	資本的収支	3億2,119万円	6億3,855万円

企業会計とは

商店や会社などの民間企業と同じように、その事業で得た収入をもって支出をする独立採算制の会計で、地方公営企業法により設置するものです。

特別会計の決算状況

区分	収入	支出
国民健康保険	124億 710万円	121億9,489万円
介護保険	120億3,986万円	116億8,932万円
後期高齢者医療	13億1,408万円	13億1,087万円
浄化槽市町村整備推進事業	1億 793万円	1億 782万円
国民健康保険診療施設	6億9,491万円	6億5,935万円
歯科診療所	3,490万円	3,490万円
斎場事業	1億8,577万円	1億7,619万円

特別会計とは

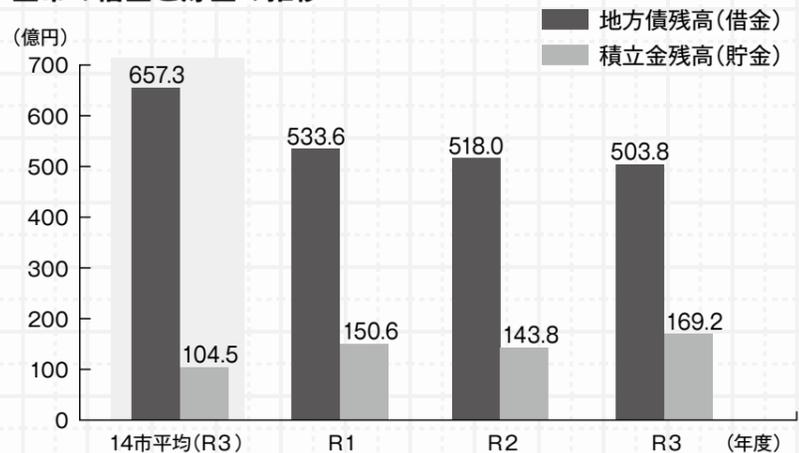
特定の事業を行う場合に、一般会計と区別して会計処理をした方が望ましいときに設置するものです。



天草市の 財政状況

市の財政状況の良しあしは、1つのものさしだけでは測れません。さまざまな指標を県内14市の平均値やこれまでの推移と比較しながら見ていきましょう。

市の借金と貯金の推移



●地方債(市の借金)

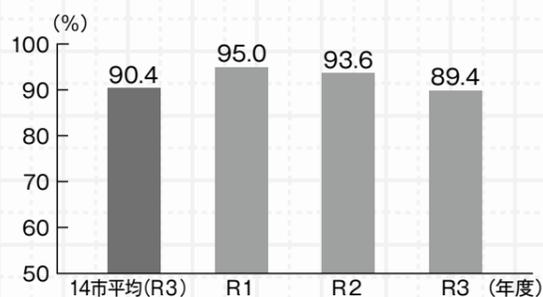
財政運営の基本方針として、借入額は元金返済額を超えないようにしているため、前年度から14.2億円減少。2年間で29.8億円減少しました。

●積立金(市の貯金)

前年度からの繰越金の増加や普通交付税の追加交付などにより、前年度から25.4億円増加しました。

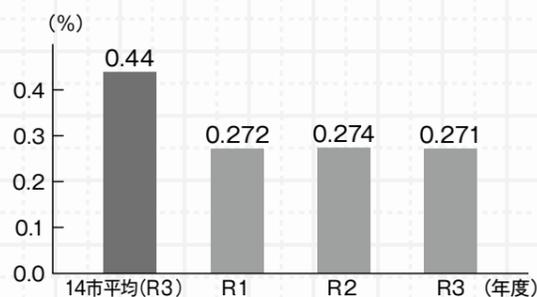
経常収支比率

市税や普通交付税など経常的に入ってくるお金を、社会保障費や人件費など経常にかかる経費にどのくらい使っているかを見る指標で、前年度から4.2ポイント改善しました。この比率が高いほど財源に余裕がないことになります。



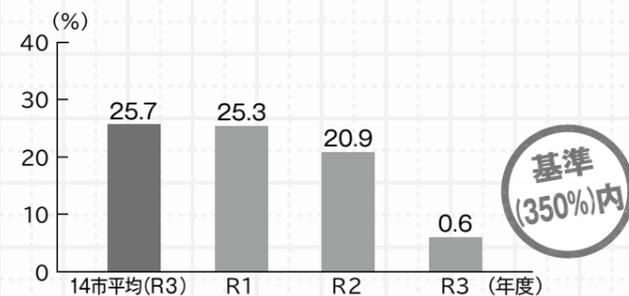
財政力指数

標準的な行政活動を行うために必要な財源を、自力でどの程度調達できるかを見る指標で、前年度から0.003ポイント低下しました。指数が小さいほど財政力が弱く、交付税や補助金などに頼っていることを示します。



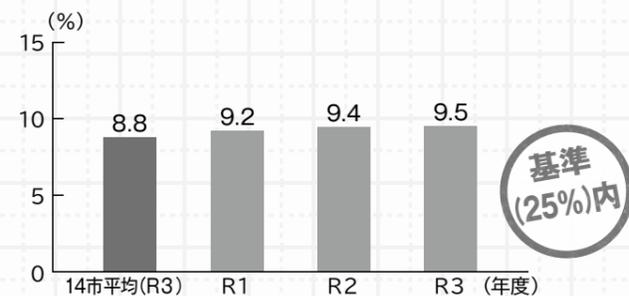
将来負担比率

借金の返済や職員の退職金など、将来支払わなければならない負債が、収入に対してどの程度かを示す指標で、前年度から20.3ポイント減少しました。この割合が高くなるほど、将来財政を圧迫する可能性が高いということになります。



実質公債費比率

収入に対する一般会計などの借金の返済の割合を見るもので、前年度から0.1ポイント増加しました。この割合が高くなるほど資金繰りが悪くなっていることとなります。18%を超えると、借金をするときの国の許可が必要となります。



市の予算は こんなことに 使いました

一般会計の歳出を市民一人当たりで換算すると、年間で78万8,713円(R4.3.31現在の人口で計算)。市税の収入は、一人当たり9万8,675円なので、不足する69万38円は地方交付税や国・県からの支出金などで補っていることとなります。

項目	民生費	総務費	公債費
決算額	184億8,282万円	121億1,868万円	70億3,494万円
市民一人当たり	24万4,036円	16万8円	9万2,885円
決算に占める割合	31.0%	20.3%	11.8%
主な事業	高齢者、障がい者、児童の福祉など 	総務・財産管理、企画調整、地域振興、税務事務など 	施設整備などで借りたお金の返済 

項目	衛生費	教育費	土木費
決算額	62億7,855万円	40億8,096万円	39億3,353万円
市民一人当たり	8万2,898円	5万3,883円	5万1,936円
決算に占める割合	10.5%	6.8%	6.6%
主な事業	健康増進事業やごみ、し尿処理などの環境保全 	学校の運営管理やスクールバスの運行、施設整備など 	道路、河川、公園、市営住宅の整備など 

項目	農林水産業費	消防費	その他の経費
決算額	24億657万円	20億4,943万円	33億5,008万円
市民一人当たり	3万1,775円	2万7,059円	4万4,233円
決算に占める割合	4.0%	3.4%	5.6%
主な事業	農業、林業、水産業の振興など 	消防活動や消防施設の整備など 	商工業、観光の振興、議会運営、災害復旧費など 